

この基礎プログラミングの講義は、私の前期の履修科目の中で1番力を入れた科目だと思う。前期のプログラミングを履修したこともあり、プログラムについての知識も前期より増えて来た。しかしながら後期の始めの頃は前期に学んだことを完全に忘れていたのでとても苦労した。第2回位からプログラミングの内容がまた新しいジャンルになり難しくなった。講義について行くだけで内容が理解できなかつたり、授業中に作成したプログラムが起動しなかつたりと苦労する点が多かった。また、各回の講義のレポートも難しくなり、1人ではプログラム問題を解くことが出来ず、週末などは夜遅くまで学校に残りレポートのプログラムを作成した。友達にアドバイスをもらい、プログラム問題を解くことがなんとか出来たりした。

今までプログラムを利用するだけの立場であったが、今度は自分がプログラムを作成する立場となり、本当にできるのか不安だったという気持ちもある。コンピュータはの構造は精密ではありプログラムもまた同じだが、それをプログラムするのは人間でありミスをすることもある。この授業を1年間学んだことで、プログラムの活用は人件費や時間の削減につながったり、現代の情報社会には欠かせなかつたりする。そして、意外と幅広く使われている。私達の身近に沢山あることが最近になってようやく気付いた気がする。

技術的なことを言うとプログラミングを体得できたかは正直、よく分からない。体得したというより慣れたという表現の方が正しい気がする。技術については前述の通りだが、技術面以外に、私はみんなと協力すること、人に分かりやすく教えること、順序を立てて考えてその物事について深く学ぶこと、分析する力などが自然と身につけていった気がする。深い知識を習得することは自分の能力不足、かつ努力不足で出来なかつたが、自分好みのプログラムや自分の好きな分野を生かしたプログラムを作れるようになったので良かったと思う。

また恋愛シュミレーションのプログラムに関しても作るのがそれなりに得意になった。

私がプログラミングを学び、これからの人生にどう影響していくか。それは今は分からない。だがしかし、就職した時の自分の最低限のスキルとして役に立つとは思っている。自分が考えた通りにプログラムを作成し、利用する。また、そのプログラムを使ってプレゼンテーションなどをする。こうやって仕事面では役に立つだろう。

後期の授業もあと何回かあるが、たるむことなく少しでも自分に力をつけていけたら良いなと思う。